

PTA だより

2010.2

編集発行：谷村工業高等学校 PTA
発行責任者：PTA 会長 奥 敏 弘
発行日：2010年2月10日



PTA 会長挨拶

谷村工業高等学校
PTA 会長 奥 敏 弘

保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと、お慶び申し上げます。

PTA 活動推進につきましては、保護者の皆様や役員教職員の方々のご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、ここ最近の10年間に携帯電話やパソコンといった情報通信機器は爆発的な発展を遂げました。

そのおかげで情報伝達のスピードは人間が考える「間」もなくあっという間に個人又は多数の人に伝わります。私たちの生活は、一昔前までは考えられないほど便利になりました。

ところがこの便利さと引き換えにコミュニケーションが薄れ、無関心が生まれ同時に地域社会の協同といった日本の文化も崩れかけているような気がしてなりません。

しかし初めて本校を訪れたとき、すれ違う生徒たちから元気のよい挨拶を受けました。

挨拶は社会に出てからもすべての基本となります。薄れかけているコミュニケーションの根幹部分です、決して大きさでなく日本の文化の良い部分を無くさせないためにもぜひ受け継いでいただきたいと思います。

部活動・谷工祭・諸行事等、色々な場面を通じ高校生活の中で社会人となる準備がされていることと思います。100年に1度といわれる大不況の中ではありますが、校長先生はじめ各先生方のご尽力により本年度も3年生全員の就職・進学については全員が決定いたしました。

又、PTAの皆様、教職員の方々には、お忙しい中関東大会の準備から始まり諸行事にあたり多大なるご理解とご協力をいただき心より感謝いたします。

本校及び本校 PTA のさらなる発展をご祈念申しあげ挨拶といたします。

PTA 模擬店を出店

三学年女性部長 齋藤 昭子

10月16日(金)17日(土)第53回谷校祭が行われました。

PTA では生徒会より参加要請を受け、昨年初めて模擬店を出店しました。カレーライス、フランクフルトを販売



して、大変好評だった事から今年も同じメニューで出店いたしました。少しでもコストを抑えて安く食していただきたく、PTA 会員の皆様に協力していただき米、野菜等の寄付をお願いし沢山の食材が集まりました。又、前日に足りない物の買出しをして、当日は早朝にも拘らず大勢の役員さんに集まっていただき男性役員さんも普段家庭でお手伝いしているかのように手際良く作業が進み大変おいしいカレーライスが出来あがりました。食べ盛りの男子生徒には盛りを多くしたり儲け除外の安値で提供できました。時間内に完売する事も出来、小額ではありますが収益金を学校に寄付する事も出来た事は頑張った成果の表れだったのではないかと思います。なかなか、学校に足を運ぶ機会が少ない保護者にとって、先生、生徒と一体となり学校行事に参加でき楽しい一日を過ごせ非常に嬉しかったです。生徒会の皆さん。来年以降も引き続き PTA として何らかの形で参加できるチャンスを与えて欲しいと思います。

又、三年間バザーに協力させていただきましたが、年々商品が減少している様に思います。せっかく中学生を対象としたオープンスクールや地域の皆様にも参加して貰えるよう日程を考慮してあるのもうひとつ工夫して来年はもっと活気付けば良いかと思いました。

この先、近い将来少子化に伴う新しい学校編成により学校行事も色々様変わりすると思いますが学園祭は、親子で楽しめる数少ない行事だと思うのでこれからも続けて欲しいです。何時の時代も生徒を思う先生の気持ち、子を思う親の気持ちは共通です。これからも三者が良い形で共有でき協力し合える事が望ましいと思います。

三年間、学校にお邪魔して子供達の学校生活を時折、垣間見ることが出来とても幸せでした。一生懸命生徒達の為に指導してくださっている先生方と谷村工業高校を選んでくれた子供に感謝しています。最後に食材を提供してくださった会員の皆様ありがとうございました。御協力していただいた役員の皆様本当にご苦労様でした。皆様と回り逢えてとても充実した三年間でした。本当にありがとうございました。

欠食率 26%

養護教諭 中山 香代子

1. はじめに

子どもたちを取り巻く大人にとって、次世代を担う子どもたちを豊かに健やかに育てることは、とても重要な役割であり使命であるといえます。その中で、子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要です。

2学期に実施したアンケート(全校対象)の結果を見ると、子どもたちの食生活が必ずしも充実しているとは言えない状況だと言うことがわかりました。将来、子どもたちが社会に出たときに、自分の足でしっかり歩いて行けるよう、子どもたちの実態から、私たち大人に今できることを考えてみたいと思います。

2. アンケート結果から

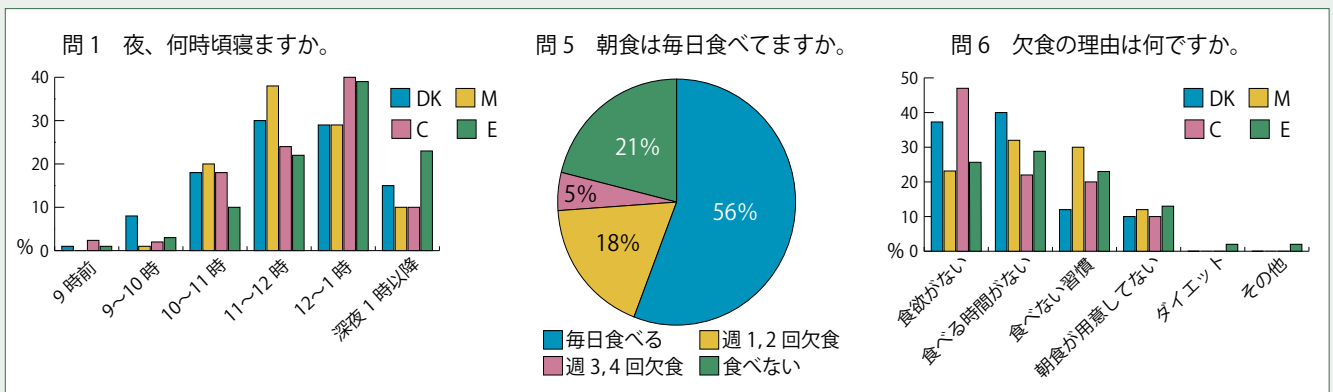
本校の朝食欠食率は、「週に3・4回欠食をする」も含めて26%と高いことがわかりました。20歳代の朝食欠食率(厚生労働省調査)は26.8%であり、本校とほぼ同じ割合でした。

学年別ではあまり大差はみられませんでした。学科別では、C科34%、E科28%と高かったです。欠食をする

理由としては、DK科では「時間がない」が40%、C科は「食欲がない」が48%と高かったです。このような結果が出た理由を考えると、まず、E科だと就寝時間が遅く(深夜1時以降が24%)、睡眠時間が短い(5~6時間が48%、5時間未満が11%)ことから、食欲や食べる時間がなくなり、それが習慣化したのではないかと考えられます。C科でも睡眠時間が遅く(12~1時が40%、1時以降が11%)、それに伴い起きる時間も遅くなり、起きてから家を出る時間が無くなり(30分以内が36%、15分以内が12%)、食欲や食べる時間が無くなるのが考えられます。

睡眠を促す物質に脳から分泌されるメラトニンという物質がありますが、現在の子どもは就寝時間が遅く、そのためメラトニンが朝方までたくさん出ているため朝の目覚めがすっきり出来ないといわれています。つまり、最近の子どもは就寝時間が遅いため、朝の目覚めはすっきりせず食欲も湧かず、そのため朝食もちゃんと食べられず、体調も悪く、なんとなくやる気がしないという悪循環となっている傾向があるそうです。

DK科では、朝起きて家を出るまでの時間が30~1時間以上が74%と他科に比べ高いのですが欠食の理由で、「食べる時間がない」が多い(40%)です。女子が多いこ



卒業によせて

三学年部会長 出羽 幸男

当日起きてきた愚息の第一声「三年間雨なしか」思えば苦笑いしてしまったが、これが大多数の生徒諸君の偽らざる心境だろうと妙な納得をした次第です。

90年代の長い低迷を抜け出し、再び低位ながら成長軌道に復帰するかに思えた日本も、一昨年の世界的な経済危機で、一気に様々な矛盾が露呈してしまった。何よりも深刻な問題は、若者世代がまともな就業形態につけないという厳しく且つ矛盾した現実ではないでしょうか。

親しくして頂いている代議士がいますが、その方がしばしば会話の中で「少年に夢を、青年に希望を」というフレーズを引用する。

3年間中継ポイントで走ってくる姿を眺めていてそれ

ぞれ様々であるが、一様に感じた事は、生徒達の明るさである、この明るさと若さでそれぞれの未来を切り開いていって欲しいとの思いを強く感じました。

学校から届いた短信によると3年生の進路もほぼ全員が内定・合格を得られたという事でありました。厳しい社会情勢の中で真摯に取り組んで頂いた先生方に改めて感謝申し上げます。

3年生は間もなく社会人。目標をもって新たな気持ちで可能性にチャレンジしてください。

勉学の道に進む者、1、2年生は一層の精進を。



～私たち親・大人にできること～

とから、食事よりも身だしなみに時間がかけられているのではないかとされます。

M科は、他科と比べると、欠食率は比較的lowく、睡眠時間もやや多かったです。

朝食を食べたときと食べなかった場合の体調への影響は、全体的に食べなかった者の方が、「寝起きが悪く、午前中は調子が悪い」「食欲がない」「やる気がない」「イライラすることがある」などの割合が食べた者に比べ上回っていました。これらは、授業中の居眠りや集中度、成績、物事への取り組み、キレやすさなどへも少なからず影響しているのではないかとされます。東海大学体育学部教授の小澤治夫先生の調査によると、小学校で保健室に来る子どもを調べたところ、朝食を抜いている児童が朝食を食べている子どもより3倍も多いことがわかりました。本校でも、欠食率が多いC科の保健室来室者は全体の52%を占めており、この調査と同じような傾向が見られます。

普段、誰と食事を摂っているかという質問では、1学年では家族そろってと答えた者が他学年に比べて多く(54%)、学年が上がるにつれて一人または子どもだけで食べると答えた人が多くみられました。

家庭での食事は身体の成長と健康を養うばかりでなく、団欒という大切な意味を持っています。家族関係が希薄といわれる現代、家族そろっての食事をする中で、会話が生まれ家族間の気密さと絆を深めていくことができ、また食事を作ってくれた人への感謝の気持ちも感じることが出来るのではないのでしょうか。

20歳以上を対象とした調査(厚労省調べ)では、子どもの頃と現代を比較し、「食卓を囲み家族団欒」が減ったとする人の割合が多くなっています(47.2%)。食事が子どもの成長にも関わっているのだとすれば、このような食事の孤独化により心の底に満たされないものを抱

える子どもたちが増加していくことが懸念されます。

欠食の理由で「食事が用意されていない(用意されていれば食べる)」が13%でした。親の事情で子どもと一緒に朝食がとれない場合もあるかと思えます。そんなときは、おにぎりやお味噌汁に一言手紙を添えておくだけでも、子どもは親の気持ちの中に自分の存在を感じることが出来るのではないかと思います。食欲が無くて朝ごはんを食べない場合も、一口も口にしないのではなく、朝食の大切さを伝え、お味噌汁や果物、ヨーグルトなど食べやすい物だけでも口にするだけでも良いかと思えます。

見た目は大人と同じようですが、すべてが自立できているわけではありません。口を出すと煙たがる年頃ではありますが放任するのではなく、遠くで見守りつつ、ここだけは守らせたいところは親として大人として伝えていくことが大切なのではないでしょうか。また、子どもにとっても「あなたを見ていますよ」というサインにもなるのだと思えます。

3. おわりに

「乳児期は肌を離さず、幼児期は手を離さず、学童期は目を離さず、青年期は心を離さず」と、言います。赤ちゃんの頃、一口一口を考え離乳食を丁寧に丁寧に作った経験があるかと思えます。その頃の気持ちを思い起こし、巣立つまでのもう少しの時間を大切に手を出し過ぎず、出さな過ぎず、心の目を子どもに向けて行けたらと思えます。

「人生を変えるのは大変なことです。行うべき事は習慣を変えることです。習慣が変われば行動が変わり、態度が変わり、そして人生が変わります(小澤治夫先生)。」まずは、できることから始めましょう。

高P連全国大会に参加して

PTA 会長 奥 敏弘

平成21年8月27日・28日沖縄県コンベンションセンター展示場を主会場に第59回全国高等学校PTA連合会大会が開催されました。当初新型インフルエンザの影響も心配されましたが、全国から1万1千人が集い本校から数野校長先生と共に参加しました。

「拓くたくましさ つなぐ優しさ 築こう親子の輪」のメインテーマは大人や地域社会がこれまで以上に子供たちを守り育てる具体的な健全育成の取り組みが強く求められる課題でもありました。

初日の全体会では、琉球大学の新城澄枝教授による食についての講話があり、幼児期から継続した食教育による正しい知識の蓄積「自分の健康は自分で守る」いわゆる

食生活の自己管理能力を18歳までに養うことが最優先されるべきこととの話がありました。

2日目の分科会は7会場に分かれ、それぞれ事例発表や研究協議等が行われ盛り多い全国大会でありました。



高P 連関東大会 山梨大会にに参加して

PTA 副会長 月見 秀治

今年には本県での開催という事もあり、何も知らない私は、他校の方々とも交流が出来ると思い、大変楽しみにしていました。ところが、いざ始まってみると、当日の受付の仕事の忙しさにヘトヘト。想像以上の人の多さ、大会の大きさにビックリ。とても楽しむどころでは有りませんでした。小中学校の関東大会を過去に経験した事を思い出し、このようなことは、ビジターが気楽で、迎える側は大変なのだという事を、体で痛感しました。それでも記念講演「小俣雅子の人生が変わる話し方」～人間関係のレベルアップ・テクニック～をじっくりと聴く事が出来て良かったです。私自身、ゆったりと身振り手振りを交えて話

が出来ればと日頃より思っていたので、小俣さんのお話は大変参考になりました。挨拶する時も話しをする時も、相手の目を見て、笑顔をもって接する事を教えていただきました。又、子供を叱る時も、褒める時も、自分の気持ちを押し付ける一方的なものはいけません。必ず、子供の事情や気持ちを理解した上で、伝えるようにとの事でした。学校で、家で、そして社会で日々絶えず学んでいる子供達の事を、共に考え、語り合う所に参加できた事を大変有難く思いました。この様な活動に今後も積極的に参加し、本校PTAがより充実したものに出来ればと思います。

強歩大会に協力

11月18日晴天の下、強歩大会が学校と戸沢地区の間で開催され、20余名のPTAの役員の皆様方が、生徒の安全の確保のための協力をしました。当日、会議室に集まり大会内容の確認と持ち場を決める打合せしたあと、大会のコースに別れ、安全に生徒が走れるように旗を振り、通りすぎる生徒に声援を送っていました。



就職・進学 100%決定

進路指導主事 宮田 悟

百年に一度の大不況の中、スタートした就職戦線でしたが、本校は今年度も全生徒の進路先を年内に決定することができました。これは不況下にあっても工業人材の求人は底堅く、また地域産業界の信頼を得ることができている証と自負しています。

ところで全国の10月末の内定率は55.2%で昨年より11.6%の落ち込みという厳しい状況で、12月末の内定状況も地域によっては5～7割です。県内においても商業科や普通科は多くの未内定者が残り、2月にも2度目の県主催の合同面接会が予定されています。

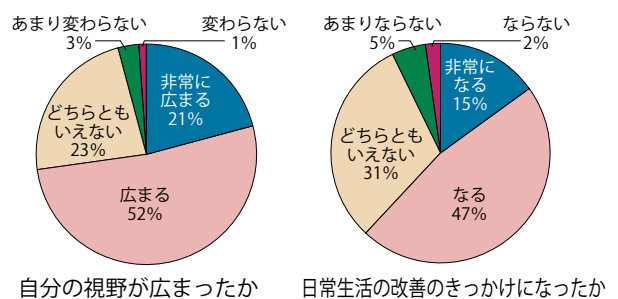
さて世界との距離がますます近くなり、地方経済にあってもIT化と国際化の進展にさらされ、採用は益々厳しくなりますが、求められる人材は基礎基本はもちろんのこと、内に向けた目と外に向けた目を持ち合わせた人物であるといわれます。それは自分の適性、可能性を知るとともに、他との違いや優劣を客観的に捉え、持ち場で確実な仕事をこなせる人物、そして適時を見て、次の一歩に進めることができる人物だそうです。折りしも世界経済の成長の原動力となるアジアにおいて社運を担って活躍する卒業生もおります。世界に出るにあたり、大きな一歩を力強く踏み出し、そして活躍の舞台を広げました。どこにあっても海外との繋がりなしには生活できない現代社会であり、あらゆる産業が、海外を巻き込んで成長の場を模索しています。そしてこのような社会に適応する能力

を引き出す進路体験が強く求められています。

今年で5年目を迎えた、夏秋に行ったインターンシップは内と外を見る良い体験でした。延べ参加生徒数191人、受け入れ事業所数92カ所、体験を通して多くの生徒が視野の広がりや日常生活の改善のきっかけを得ています。そして個々の進路希望、適性に応じた進路指導の結果として、地域の優良企業、大学、専門学校等への進路を決定することができました。

今後も進路の取り組みへのご理解とご協力を宜しくお願い致します。

インターンシップに参加して



今年度の主な就職先: NGK セラミックデバイス, NBC ムッシュテック, オプト, コニカミノルタ電子, シチズン電子, 東京電力, テルモ, NTT 東日本, 日野自動車, 山梨県警察, 陸上自衛隊

今年度の主な進学先: 山梨大学, 山梨学院大学, 帝京科学大学, 東京工科大学, 神奈川工科大学, 大東文化大学, 山梨県立産業技術短期大学校, 富士吉田市立看護専門学校, 日本工学院八王子専門学校